



如来立像

銅造
像高26.0cm
飛鳥時代(7世紀)
当館蔵

うっすらと微笑をたたえた顔。胸元をU字形にひろく開け、線的な衣文を描く衣。足下に見える翼のような裾のすそ。こうした表現は、飛鳥時代の6世紀から7世紀の仏像に見られる特徴である。

本像は、近年滋賀・石山寺の秘仏本尊如意輪観音像の胎内から発見された金銅仏四軀のうちの一軀に、着衣の形状や足裏に柄を作り出す仕様が酷似している。この石山寺像については、扁平な体軀やその繊細かつシャープな表現から、中国または朝鮮半島での制作と考えられているが、研究者の間では、その作例が皆無に近いため、実態の不明な6世紀の中国南朝造像の可能性もささやかれている。

本像は、石山寺像のような造形的なシャープさはなく、朝鮮半島三国時代の造形とも趣が異なるため、日本製と考えられている。両者の類似から、本像の制作当時、石山寺像が何らかの影響と規範性を持っていたことがうかがえる。

止利様式をはじめとする飛鳥時代仏像様式の源流は、戦前から中国の北魏様式にあると言われてきた。しかし、戦後の研究では、当時の日本が一番関係の深かった朝鮮半島百済の影響が指摘され、さらにその源流として百済と交流が深かった南朝からの影響が言われるようになった。もし、石山寺像が南朝造像であるとすれば、南朝の仏像が本像のような飛鳥時代の造像に、大きな影響力を持っていたことを実証するものとなる。石山寺像の制作地域が確定できず、南朝造像の実態が明確でない現在、すべては憶測の域を出ないが、本像は、石山寺像とともに、飛鳥時代仏像様式の源流や影響関係について考える上でも重要な遺品といえよう。

また、本像のような、全体に「まるみ」を帯びた造形に、中国や朝鮮半島の影響を認めるならば、中国・朝鮮半島の影響を受けながらも独自性を強めた止利様式とは別系統の様式として、制作年代についても考え直す必要が出てくるだろう。年代を上げるべきか下げるべきか、早急に確定しがたいが、今後の新発見や研究の進展により、本像の重要度はさらに高まるであろう。

岩井 共二 (当館学芸部教育室長)

◆なら仏像館 名品展「珠玉の仏たち」にて展示中

名品展の みどころ

銅鼓

銅造
縦38.8cm 口径60.5cm
漢～六朝時代
(紀元前3～紀元後6世紀)
当館蔵



青銅器館二階の展示室に楽器のコーナーが設けられているの

をご存知であろうか。今回はその中でも異色の一品、青銅製の太鼓「銅鼓」を紹介する。

本品は漢代以降に製作されたものであるが、銅鼓自体は紀元前5世紀ごろから製作が始まり、現在でも広西チワン族自治区、広東、雲南、貴州、四川、湖南など中国南部の少数民族地区からインドシナ半島まで広い範囲で使用が確認されている。恐らく、各種の青銅器の中で今も現役として生産・使用が続いているのはこの銅鼓だけではないだろうか。

鼓面には中央に太陽のような文様を置き、その周囲を同心円状に圏線と幾何学文様各種で飾る。側面も圏線と各種幾何学文様が巡る。展示は鼓面を上に行っているが、出土品の形態及び現在の使用法から考えると、側面にある把手に帯を通し、横位にした銅鼓を首から下げ、打ち鳴らすようだ。

最初に製作されたのは雲南地域で、雲南地域と東南アジアを結ぶメコン川や紅河を通じて広まり、インドシナ半島一帯に広く分布するようになったと考えられている。古代中国の中原地域では商周代以降、青銅器の中でも特に鼎や簋などの大きさや所有数が皇帝や王たちの権力の指標として重視されていた。しかし、中国の南方地域では「北鼎南鼓」という言葉に表されるように、この銅鼓がそうした指標とされていたのである。

本品には見られないが、鼓面にカエルの小さな装飾がつくものが多く存在し、現在においても広西チワン族自治区などでは農耕と深く結びついたカエルの祭りで銅鼓が使用される例が散見される。古来より農耕儀礼との関わりの中で中国・東南アジアの広い範囲の人々の生活に根付いていったものであろうか。遠く離れた日本でも、カエルが描かれた銅鐸が出土するが、底流には同じ思想があるのかもしれない。

岩戸 晶子 (当館学芸部研究員)

◆青銅器館 名品展「中国古代青銅器(坂本コレクション)」にて展示中

開館日時(10月～12月)

■開館時間

平常時

午前9時30分～午後5時

※10月26日までの毎週金曜日と12月17日(月)は午後7時まで

正倉院展会期中(10月27日～11月12日)

月曜日～木曜日:午前9時～午後6時

金・土・日曜日、11/3(祝):午前9時～午後7時

※いずれも入館は、閉館の30分前まで

■休館日

毎週月曜日(ただし10月8日(祝)、12月17日、

12月24日(振休)、12月31日は開館し、

翌日は休館)、1月1日(火・祝)

※正倉院展の会期中は無休

観覧料金

第64回正倉院展

	一 般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,000円	700円	400円
団体・前売	900円	600円	300円
オータムレイト	700円	500円	200円

※団体は20名以上です。※前売は、10月26日(金)まで。

※オータムレイトは、閉館の1時間30分前より販売する当日券の料金です。

※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

名品展・特別陳列・特集展示

	一 般	大学生	高校生以下
個 人	500円	250円	無 料
団 体	400円	200円	無 料

※満70才以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。



〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。



奈良国立博物館
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ(PC用) <http://www.narahaku.go.jp/> (携帯用) <http://www.narahaku.go.jp/mobile/>

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は90円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。

